

ヤシキリン通信

まちを楽しむ・みどりを楽しむ
—下保谷旧高橋家から考える学びと暮らし—

—2024・第4号topic—

- ・令和5年度季節イベントと一般開放
- ・西東京市のみどりと屋敷林
- ・武蔵野の農家の暮らしと屋敷林
- ・屋敷林の樹木管理の現状



快適で豊かな環境を維持するため、屋敷林の樹木管理を進めています！

屋敷林は人の暮らしの為に、人が作り、管理してきた自然です。管理を行うことで、人が活動する快適な空間となります。しかし管理を怠ると、人が活動しにくい場所になってしまいます。

本来の屋敷林の樹木は、新薪や建築材料として使用する目的で、定期的に剪定されていたため、適切な樹高に管理されていました。しかし、現在の下保谷四丁目特別緑地保全地区は、屋敷林としては樹木が成長しすぎており、枝先の栄養が不足し、末端の枝が枯れることによる落枝などの危険があります。

当地区は、都市化が進む都心では貴重なみどりに囲まれており、地域の子どもから大人まで市民の皆様の憩いの場として気軽に過ごせる場所を目指しております。この魅力を次世代にも残すため、樹木の剪定などの屋敷林の維持管理を、専門家の意見を反映しながら行っております。



一部のケヤキで剪定を行いました！



剪定した木材の一部は、イベント時の工作やベンチなどの制作材料にして活用しています！



季節ごとのイベント＆一般開放を行っています

令和4年度より、市民の皆様に屋敷林の自然や歴史に触れていただくため、月2回程度の一般開放を始め、今年度で2年目となります。

少しずつではありますが、下保谷四丁目特別緑地保全地区を認識いただいております。一般開放日には、高齢者や、幼稚園や保育園等のお散歩まで幅広い方々に親しまれています。

また、今年度の季節ごとのイベントは、新緑、夏、紅葉、桜の時期に実施し、多くの方に来場いただきました。今年度初めて開催した新緑（5月）のイベントでは、母屋の中で俳句を詠んだり、屋敷林の緑に囲まれて母屋でくつろぐかつての屋敷林での暮らしに思いを馳せながら過ごしていただけるように、休憩室として開放しました。

また、春のイベントでは、来場された皆様に、「この場所で〇〇がしたい！」というアンケートを実施しました。多くの投票があった選択肢は「母屋をカフェにしてゆったりコーヒー」「樹木や草花、野鳥等についての勉強会やセミナー」「子どもが自然や文化を

楽しみながら学べる体験学習」といった内容でした。現在作成中である当地区の保全活用ガイドラインの参考にさせていただきます。

下保谷四丁目特別緑地保全地区の自然は都市化が進む保谷駅周辺において、人と共存し、保全と活用のバランスから成り立っています。今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。

今後のイベントや一般開放のお知らせは、西東京市ホームページや市報のほか、当地区の掲示板や、下保谷四丁目特別緑地保全地区のホームページから行います。ぜひチェックしてみてください。



▲2024年3月の春のイベント
「この場所で〇〇がしたい」アンケート実施の様子

ヤシキリン通信 第4号

企画：旧高橋家屋敷林保全活用プロジェクト

発行：2024年3月 / 西東京市みどり公園課

『ヤシキリン通信』は、市民・専門家・行政らが協働し、下保谷四丁目特別緑地保全地区の活動を通して屋敷林と地域の魅力を発見し、その成果を発信するフリーペーパーです。

2024年度一般開放のお知らせ

毎月 **第1金曜日**と**第3土曜日**の**午後**が開放日

当地区に来場させる際に、「開放日が分かりづらい」とのご意見を頂いておりましたので、今年度の一般開放は、原則として上記の通り固定して開放致します。

※正月等、一部変則的な月もございます。

※開放時間は13:00-17:00（冬季は12:00-16:00）です。

詳細は当地区HPもしくは、当地区入り口の看板をご覧ください。

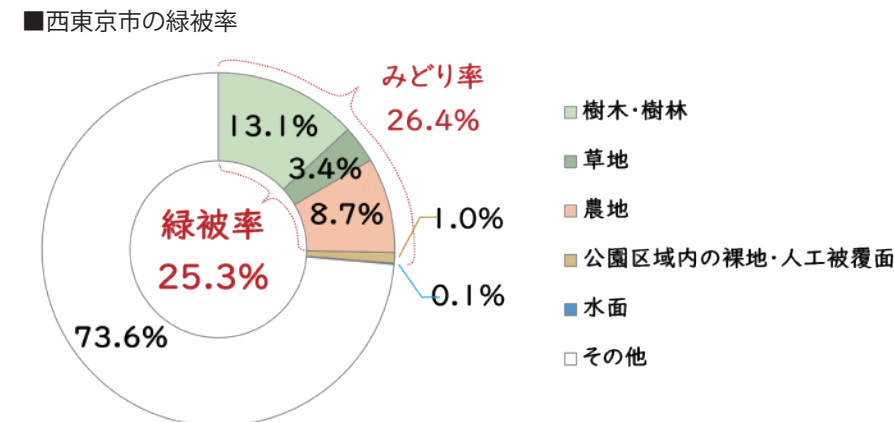
当地区のHPはこちらから⇒



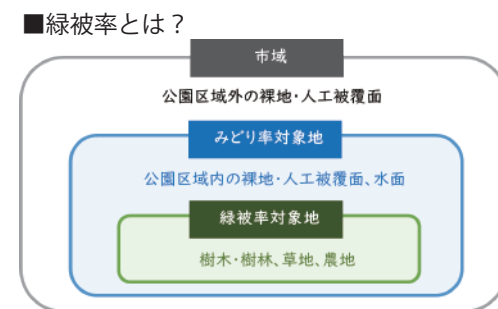
西東京市のみどりと屋敷林

令和4(2022)年1月1日時点の航空写真を基に算出した西東京市の緑被率は25.3%、となっています。

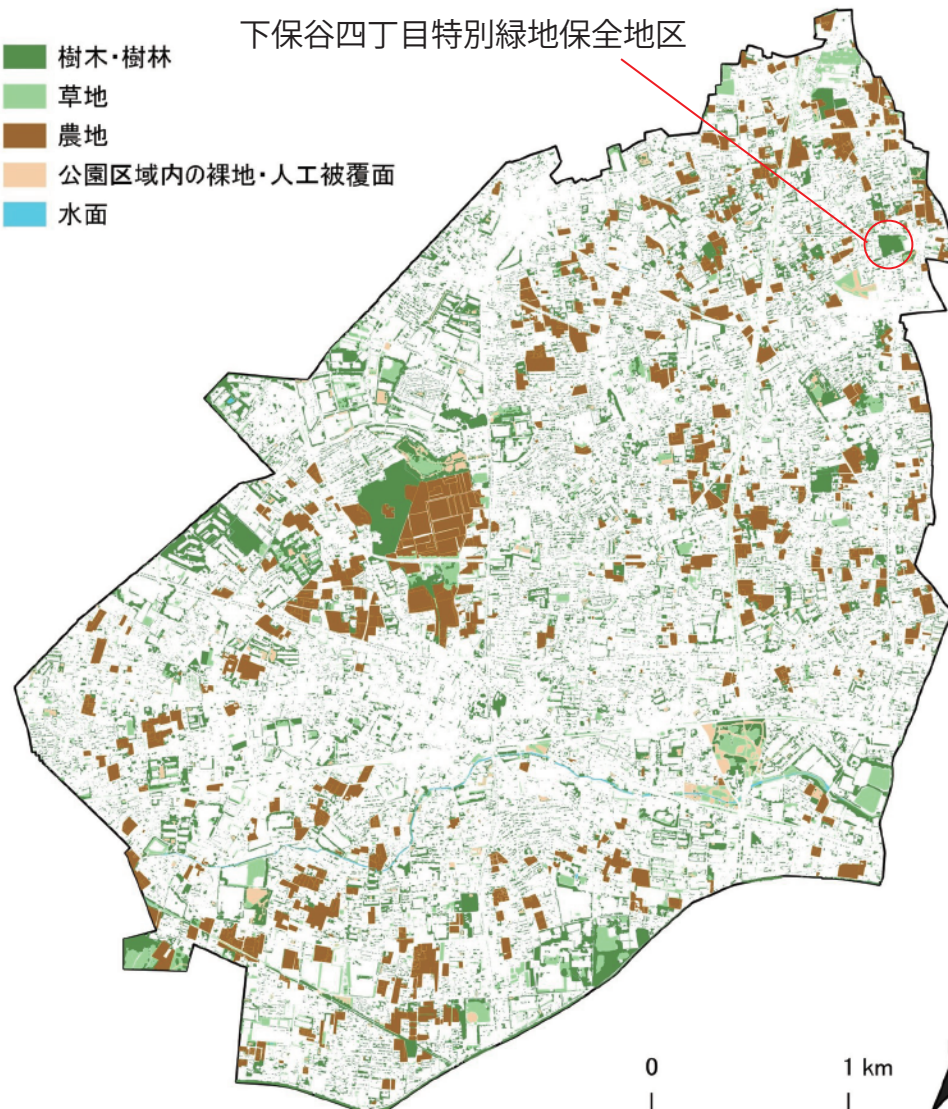
緑被率対象地に対する構成比としては樹木・樹林が52.0%、農地が34.4%の順に多くなっています。



緑被率・・・一定区域の中で、上空から見て芝や高木の樹幹などで緑に覆われた面積が占める割合



緑の多い印象のある西東京市、実は他市と比較しても緑量が多いわけではありません。なぜそのように感じるかというと、農地や屋敷林のようなまとまった緑があるため、緑を多く感じるのです。下保谷四丁目特別緑地保全地区は、武蔵野の農家が現代へと継承した屋敷林であり、西東京市のみどりを代表する重要な場所だといえます。かつての武蔵野の農家の暮らしが、今のみどり豊かな西東京市を作り上げている事を感ずることが出来ます(参考：西東京市第2次みどりの基本計画)



武蔵野の農家の暮らしと

屋敷林

旧保谷市域には、中世の初期集落からそれぞれ発展した上保谷村、下保谷村ができ、江戸の近郊農村として畑作農業を中心とした集落形成が進んでいました。

そして暮らしの中で、強風や土ぼこりをよけるため、また薪炭(しんたん)の原料とするため等により、屋敷周りには屋敷林が形成されたほか、江戸幕府の命により、江戸で使われる薪炭、建築材料を得るために木々が植樹され、「武蔵野」の風景としてなじみ深い、雑木林と農地の景観が形成されました。つまり、屋敷林はかつての農家の暮らしと密接に関係し、人によって作り出され、維持されてきた、人と自然との共生の場だと言えます。

現在では、武蔵野の屋敷林の数は少なくなり、貴重な存在となっています。当地区や都市農地は緑を生み出しているだけでなく、武蔵野の暮らしを現代に伝える貴重な文化財でもあります。

(参考：第2期西東京市文化財保存活用計画)



■現代にも受け継がれている、屋敷林の自然と文化



日射緩和の為に植えられた樹木が生み出す、緑陰
(夏のイベント時の様子)



防風、防塵の為に常緑樹と紅葉
(紅葉のイベント時の様子)



敷地内の樹木材を使ってむかし遊びのおもちゃを作成
(旧高橋家屋敷林保存会作成)